



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2007.6

No. 278

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O

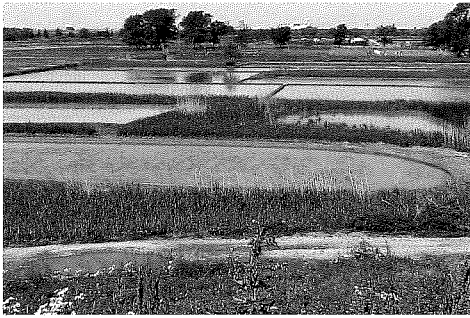


「農家と野鳥の会の交流イベントー米作り体験」 シロハラクイナの声の伴奏つき田植えを楽しみました

海老原美夫(さいたま市)

大久保農耕地B区

さいたま市の西端、地名で言うと桜区塚本、荒川河川敷内に荒川総合運動公園があります。その南側の田んぼは、かつて埼玉大学野鳥研究会が便宜上割り振った名前で「大久保農耕地B区」と呼ばれ、当支部でも毎年秋には探鳥会を開いています。かつて、ミヤマシトド、リュウキュウヨシゴイなどの珍鳥も記録されています。



農家と野鳥の会の接点

その大久保農耕地B区で、本来は琉球諸島に生息するシロハラクイナが発見されたのは2006年6月14日。7月23日には雛5羽が観察されました。7月26日に予定されていた農薬散布に対して、抑制のお願いを当支部から農協に急遽提出。繁殖アシ原隣の田んぼの耕作者、高野博明氏と佐藤勇氏がそれに応えて、農薬散布を中止してくれました。

高野氏は押し寄せるバードウォッチャー、カメラマンたちと農家との仲立ちとして、当支部の保護活動にご協力くださり、シロハラクイナの雛たちは無事に育ちました。

11月18日にさいたま市内で開催された関東ブロック協議会の席で、柳生博会長から高野・佐藤両氏に感謝状を贈呈、農家と野鳥の会のつながりが強まりました。

交流イベントの提案

実は大久保農耕地B区の北東部、まさにシ

ロハラクイナが繁殖したあたりは昔、神子田(みこだ)と呼ばれ、荒川上流から流れてきた米作りに適した土に恵まれた田んぼです。

高野家ではこの秋この地で収穫した米を「神子田米」と名付け、私が撮影したシロハラクイナの写真シールを貼って売り出しました。野鳥の会の人たちもたくさん購入し、その味を楽しみました。

せつかくのつながりを大切にしようと高野氏側から提案されたのが、「農家と野鳥の会の交流イベントー米づくり体験」です。詳しくは本誌2007年4月号をご覧ください。ことにして、野鳥の会の私たちとしても、水田というもの、農業というものを今いち分っていないのではないかという反省から、話し合いの結果、当支部協力のイベントとして実施することになったわけです。ここまでが、今回の田植え体験がどういう経過で行われることになったかの、長い長い前置きの説明です。

いよいよ田植え体験の日

5月3日(木・休日)は文句なしの快晴。少し早く現地に着いた私の目に飛び込んできたのは、シロハラクイナ繁殖アシ原の隣、まさに私たちがこれから田植えをしようとしている田んぼの真ん中を歩いているシロハラクイナの姿です。B区内で越冬したことは知っていましたが、田植えの日に堂々姿をあらわすとは、おぬし、なかなかやるではないか。

予定された10時に、8家族15人が集まりました。最年少は中学1年生の男子、最年長はあえて不明。

高野氏が用意した地区の歴史資料などが配られました。大久保地区は、弥生時代から人が住んでいた遺跡が確認されており、古代条里制度の痕跡が今も残っているとのこと。地域としてもなかなか油断できないところだということ、こういうことになって初めて知りました。

まずは機械植え

全部手植えは無理なので、まずある程度の範囲を機械植えです。機械植えさえ初めて見るという人が多く、興味しんしん。中学1年生は田植え機に同乗させて貰い、嬉しそうに苗の補充も手伝っていました。



その間、機械音に負けず、ずっとシロハラクイナの声が響いています。

いざ田んぼの中へ

長靴で、あるいはズボンを捲り上げたはだしで、恐る恐る足を踏み出しました。水面はかなり暖まっていた。ずるずると潜ってある程度の深さで支えてくれる底の、その冷たさには驚きました。わずかな深さの差で、随分温度差があるものです。

子供のころ田植えを手伝わされたという藤掛支部長が、苗の持ち方、挿し方を実演して見せます。高野氏は「一度に苗を3〜4本ずつ、間隔は18センチから20センチ、葉の先が水面から出れば大丈夫だから」と言うので、思い切って大胆に。泥の柔らかさに驚きました。2〜3回やると、もう大ベテランの気分。あっという間に交代の時間。もっとやりたかったな。



お昼だぞ！ おにぎりだぞ！

B区内の水田、あちこちで田植え機が動いています。土手の上にブルーシートを敷いて車座に。お米はもちろん神子田米。高野家の竹林で採れたタケノコの煮物は柔らかい。どれもこれもおいしかったです。これも高野家で採れたフキをお土産に、満足しての解散でした。

シロハラクイナよ、苗に注意して！



その後、私たちが苗を植えた田んぼを歩くシロハラクイナの姿がありました。足の大きさが気になります。おい、シロハラクイナ、その大きな足で苗を倒すなよ。

これまでは、苗を倒す被害が悪感情として野鳥に跳ね返ることを危惧する間接的、観念的な心配を感じていました。ところが今や、もろに苗の方を心配しています。なんとも分りやすい変化です。もしかしたら、これが今回の田植え体験の一番大切なところかも知れません。

お米がおいしく、たくさん育ちますように。シロハラクイナが今年も無事に子育て出来ますように。

野鳥記録委員会の最新情報

日本野鳥の会埼玉県支部記録委員会

●ヨーロップトウネン

英名 Rufous-necked Stint

学名 *Calidris ruficollis*

分類 チドリ目シギ科オバシギ属

埼玉県生態系保護協会発行『ナチュラルアイ』2007年2月号によれば、2006年11月26日、越谷市レイクタウン調整池で、夏羽がかなり残ったヨーロップトウネン1羽が撮影されたとのこと。写真も掲載されています。

当記録委員会の記録の基準は、基本的には「写真など客観的な裏づけのある情報」そのものですが、二次的なものとして、「新聞など信頼できる媒体に、信頼できる関係者の情報として掲載されたもの」も、記録の対象としています。今回はその場合に当てはまり、県内初(320番目)として記録します。

本種はノルウェーからシベリアの極地方で繁殖し、冬はアフリカ・アラビア・インドなどに渡ります。日本には稀な旅鳥または冬鳥として飛来します。近年観察例が増えていますが、内湾や河口の干潟などが主で、内陸部である本県では今まで記録されていません。

ニトウネンとも呼ばれますが、『日本鳥類目録改訂第6版』(日本鳥学会 2000年)では「ヨーロップトウネン」と記載しています。

●シロハラクイナの越冬

英名 White-breasted Waterhen

学名 *Amaurornis phoenicurus*

分類 ツル目クイナ科シロハラクイナ属

本誌2006年10月号(第270号)で県内初の繁殖を報告したシロハラクイナは、2006年8月末から9月に入ると姿を見ることは稀になりましたが、引き続き声が聞こえることは、複数の観察者から報告されました。

冬になっても、声が聞こえるとの情報は続き、1ヵ月以上間隔があくことはありませんでした。そのまま年を越し、2007年3月に野焼きが実施された後も、その場所は移動しましたが、近辺で声が聞こえる状況は続きました。羽数と成鳥、若鳥の区別は不明です。

2007年5月3日、海老原美夫(さいたま市)



が、前年に営巣繁殖したアシ・マコモ群落隣の水田で採餌するシロハラクイナ1羽を撮影しました(=上写真)。

この日シロハラクイナの声は大きく間断なく聞こえ、目の前に見えている個体が鳴いていない時、別の場所から声が聞こえるので、明らかに複数個体いるものと思われました。

以上のことから、シロハラクイナは2006年から2007年にかけて、さいたま市桜区の堤外地で越冬したものと考えられます。これは埼玉県内初の記録です。

「sp.」という変な言葉

寺添捨男(さいたま市)

探鳥会報告の鳥リストの中などに、時々「sp.」という変な言葉が出て来ます。「タカ sp.」とか、「サギ sp.」とか。その表記の仕方も、「SP」あるいは「sp」など様々です。本誌4月号で紹介されているように、学名としての種名は「属名+種小名」で表示されます。その内、属名までは分かるが種小名までは同定できない時に、「属名+sp.」と表記するのが正しい使い方です。例えば、ハイタカ属のタカであることまでは分かるけれども、それ以上は同定できない場合に、「*Accipiter* sp.」とするように。

だから、日本名である「タカ」に「sp.」を付けるのも、科の名前である「タカ」に「sp.」を付けるのも、二重に間違っていると言えます。そういう場合は、「タカ科不明種」とでも表記したらいかがでしょうか。



野鳥情報

越谷市七左町 ◇1月28日午前7時20分、シラコバトの鳴声を確認。姿は観察できなかった(小菅靖)。

越谷市新川町 ◇1月26日午前8時40分、健康福祉村公園の池上空でユリカモメ60~70羽が舞っていた。素晴らしい(小菅靖)。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇1月16日、サンショウクイ2羽(中川敏子、千野安以)。◇2月8日、子供の森でヒレンジャク1羽。シロハラがあちこちに。ハシブトガラス2羽仲良く並び、1羽が相手の襟首をやさしく嘴でなでていた。ルリビタキ♂1羽♀2羽、ウソ3羽+。2月13日、子供の森で「フイフイフイ…」の声の主を見たらゴジュウカラ1羽、アカゲラ、ウソ、シロハラなど(鈴木紀雄)。

さいたま市桜区田島 ◇2月8日、鴨川の干潟でタゲリ27羽、イカルチドリ1羽(鈴木紀雄)。

さいたま市見沼区大谷 ◇1月19日、大谷環境広場でイカルチドリ7羽(鈴木紀雄)。

さいたま市見沼区深作 ◇1月24日、遊水池で杭にとまるカワウの中にセグロカモメ1羽。他にオカヨシガモ、ホシハジロ、ハシビロガモなど(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇1月24日、カワウ、マガモ、カルガモ、ヒドリガモ、コガモ、イカルチドリ、セグロカモメ、カワセミ、アカゲラ、コゲラ、キセキレイ、ツグミ、シロハラ、アカハラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、アオジ、ホオジロ、



アリスイ(山田多茂津)

カシラダカ、オオジュリン、シメ、ウソ、ベニマシコ、ジョウビタキ、カケスなど計39種。1月25日、セグロカモメ成鳥1羽、ベニマシコの声、ゴイサギ若鳥、アカゲラ♀1羽、ウソ♀など。1月28日、元荒川岸でタシギ2羽、セグロカモメ3羽(成鳥2羽、若鳥1羽)は珍しい。ベニマシコの声。2月2日、元荒川でセグロカモメ成鳥1羽、イカルチドリ。対岸のシギ、いつものイソシギと思ったら、クサシギだった。ウソ♀ばかり8羽。2月5日、アオサギ、イカルチドリ、アカハラ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、アオジ、ホオジロ、カシラダカ、オオジュリン、シメ、ウソ、ジョウビタキ、カケスなど計33種。2月19日、ベニマシコ久しぶり、アカゲラ♂1羽、暗い水路の所でミソサザイ1羽がチョコマカ動いていた(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区南平野 ◇1月25日、元荒川でユリカモメ9羽(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区掛 ◇2月5日、元荒川の城北大橋北側でオナガガモ♂12羽♀3羽、カルガモ、ヒドリガモ、コガモ(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区新方須賀 ◇2月7日、焼かれたアシ原でドバト約40羽、キジバト約40羽、タヒバリ13羽、ツグミ4羽、タゲリ1羽。2月18日、カラスが騒いでいるので探したら、刈られた葦原の中の灌木でオオタカ1羽、動かず。上空をハヤブサが東に通過。焼かれたフィールドでタヒバリ、ツグミとともに採餌するタゲリ1羽(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区鹿室、白岡町太田新井、春日部市内牧の境界辺り ◇3月4日午後1時

55分~3時30分頃まで、水と緑のふれあいロードの起点周辺でウグイスの「ホーホケキョ」とさえずりを聞く。無論、地鳴きもあり。1句、『ホーホケキョ 時々チャッチャッを入れるやつ』。カケス、10羽以上が東の植木畑内で地上に降りて採餌、キジバト、ツグミも一緒。アトリ、全部で8羽を確認。冬羽個体の中に早くも夏羽個体も2羽ほどいた。未整地の盛り土の上に繁茂

した枯れ草で採餌、時折、近くの立ち木や枯れ木に止まる。ウソ、西側農家屋敷林端の木の新芽を盛んについばんでいた。2羽とも亜種アカウソでした。カワウ、上空を1羽南下する。シジュウカラ、メジロ、スズメ、ヒヨドリ、キジバト、シメ。ツグミ、ヤマガラ、カワラヒワ、カシラダカ、コゲラ、アオジ、オオジュリン、ハシブトガラス、ハシボソガラス（石川敏男）。

さいたま市大宮区天沼町 ◇2月8日、芝川でヨシガモ♂2羽、コガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、バンと多彩（鈴木紀雄）。

春日部市内牧 1月22日、宮代側でオオタカが樹間からこちらをにらみ、ノスリは飛び出して、カラスにモビングされる。カワセミ♂1羽、ルリビタキ♀1羽、ヤマシギらしきが飛ぶも確認できず。アトリ、ホオジロ、カワラヒワ、シメ、アオジ、カシラダカ、スズメの混群が草地で採餌（鈴木紀雄）。

春日部市増田新田、谷原親水公園水鳥の池周辺 ◇3月3日午後1時25分～2時10分頃、水鳥の池の東側、安乃堀川沿いに立つ電柱にカワウ3羽飛来し、両翼を展開し乾かしていた。内1羽の成鳥は、右足首に青味があったループ状の足環、左足首には金色の金属製足環をしており、今年の1月4日午前11時30分～12時30分にも確認している個体だろう（石川敏男）。

春日部市中野 ◇3月8日午後4時30分～5時45分、カルガモ、スズメ、ムクドリ、コガモ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、コサギ2羽、アオサギ2羽、ダイサギ1羽、アオジ、シメ、キジバト、ヒヨドリ、カワラヒワ、オナガ。タシギ、会之堀川にて1羽。オオジュリン、前堀落としの枯れアシで、夏羽に換羽し始めた雄1羽を確認。アカハラ、午後5時25分頃、中野の農家庭先の茂み（常緑広葉樹）で地鳴き、「ピュルルル」、行ってみると、なんと立派なアカハラ成鳥雄1羽が梢に止まっており、しばらく観察できた。十分、撮影するチャンスあるも、デジスコ持参せず、残念。ツグミ、

午後5時30分頃、ねぐら入り前に木の枝に多数集合、しばらくじっとしている（石川敏男）。

蓮田市笹山 1月23日、田んぼの畔でホオアカ1羽、久しぶり（鈴木紀雄）。

蓮田市黒浜東埼玉病院 ◇1月23日、カシラダカ、シロハラ、アカゲラ、トラツグミなど。今季初めてトラツグミに出会った。順光で色も模様も美しかった。1月24日、シメ、ウグイス、アオジ、ツグミ、カケス、キジ♀2羽、シロハラ8羽十、カワセミ、ルリビタキ♀1羽、アカゲラ、カシラダカなど。シロハラはよく見るが、アカハラは見かけない。やっとルリビタキを見た。1月26日、コジュケイ6羽十、キジ♂1羽、アオジ、クロジ3羽十、シロハラ9羽十、カケス、アカゲラ、ヤマガラ、ルリビタキ、カシラダカ。トラツグミ、15m位先の木の1m位の高さの枝にとまっていた。順光で色と模様がとても美しかった。スズメ約50羽、ハイタカ1羽。1月28日、トラツグミ1羽、シロハラ8羽、クロジ2羽、カシラダカの群れ、アオジ多し、ホオジロ2羽、アカゲラ1羽、コゲラ2羽、カケス20羽十。キジ♂1羽、他に4羽。ウグイス、メジロの群れ、コジュケイ10羽、ルリビタキ♀1羽、ヤマガラ、ジョウビタキなど。楽しいメンバーが揃いました。1月30日、シメ、カシラダカの群れ、アカゲラ、シロハラ、クロジ3羽、ミソサザイ1羽、カケスなど。2月2日、シロハラ5羽、コジュケイ10羽、カシラダカの群れ、カケス、ミソサザイ1羽、トラツグミの声、クロジ3羽、セッカ3羽など。2月3日、ヤマガラ1羽十、ルリビタキ♀1羽、ルリビタキの声1羽。アカハラ1羽など。2月5日、ハイタカ1羽、カラスにモビングされて林に突っ込んでいった。コジュケイ6羽、次々と出てきてかわい。クロジ1羽、アオジ、シロハラ、カシラダカなど。2月6日、アカハラ、シロハラ5羽。キジ♂♀がカケスを追って、林の上すれすれを「ケーツ、ケーツ」と鳴きながら飛んで行った。一体何があったのだろうか。初めて見た。2月8日、コジュ

ケイ5羽十、アオジ、クロジ、シロハラ9羽、アカハラ1羽、カケス20羽十、カシラダカ40羽十、ミソサザイ1羽、トラツグミ1羽など。2月9日、コジュケイ10羽、カケス20羽十、アカゲラ2羽、コゲラ2羽、シロハラ4羽、アカハラ4羽、キジ♂1羽、ジョウビタキ♂1羽♀1羽、ルリビタキ♀1羽、カシラダカ50羽十、シメなど。本日はアカハラ4羽をはじめ、鳥が多く心躍る日となった。2月12日、アオゲラ1羽、アカゲラ2羽、シロハラ10羽十、ヤマガラ1羽、コジュケイ8羽十、ジョウビタキ2羽、カケス20羽十、カシラダカ50羽十。トラツグミ1羽など。2月17日、ウグイスのさえずりを今年初めて聞く。コジュケイ8羽十、行列して歩いているさまがかわいかった。シロハラ4羽、アカハラ1羽、キジ♂1羽、ヤマガラ3羽、カケス、シメなど。2月22日、ヤマガラ4羽、アオゲラ1羽、コゲラだろうと思って見ると、何とアオゲラだった。コゲラよりも小さいドラミングだった。コゲラ5羽、コゲラも群れをつくることを初めて知った。アカゲラ1羽、シロハラ5羽、アカハラ1羽など(本多己秀)。◇2月18日、ウソ10羽、桜の芽をついばんでいた。ルリビタキ♀など(鈴木紀雄)。

蓮田市黒浜 ◇2月1日、アシ原でオオジュリン、茎をバリバリ。上沼でカルガモ約60羽、コガモ約30羽、バン2羽、オオバン5羽、カイツブリ約10羽、タシギ2羽、カワウ3羽、カワセミ、アオジ、ホオジロ、カシラダカ、カケス、ウグイス、シメ、ジョウビタキ。アカゲラとベニマシコは声のみ。2月23日、上沼脇の田んぼでオオバン7羽が上がって採餌。草地でキジ♂1羽とトラツグミ1羽が1mの距離でえさ探し。トラツグミはお得意の足ゆすり虫追い出し作戦をやっていた。路上でシラコバト3羽、電線にチョウゲンボウ♂1羽(鈴木紀雄)。

菖蒲町小林 ◇1月28日、ニュウナイスズメ約30羽。2月6日、ニュウナイスズメ約50羽(鈴木紀雄)。

上尾市井戸木 ◇2月5日午前7時15分、農家の庭で「ツピンツピン」とシジュウカラ

さえずる(立岩恒久)。

上尾市中分 ◇2月20日午前10時、浄水場近くの空でヒバリさえずる(立岩恒久)。

桶川市若宮 ◇2月23日午前9時30分、小公園でウグイス初鳴き。暖かい小雨の中「ホーホケチヨ」とさえずる(立岩恒久)。

川里町関新田 ◇1月28日、ニュウナイスズメ300羽十の大群が、樹木、電線にとまり、草地に降りては採餌していた(鈴木紀雄)。

川越市新河岸川 ◇1月30日、トモエガモ♂1羽、31日早朝も確認できたので、鳥友に連絡したが、その後観察されなかった(小松裕子)。◇2月22日、養老橋近くでトモエガモ♂1羽、ヨシガモ♂5羽♀5羽(藤掛保司)。

川越市新河岸川寺尾調節池 ◇2月2日、ノスリが毎日見られるようになり、ネズミやアメリカザリガニ等を食べている。今日は、木の上にとまっているのを見ていたら、急降下してきて、2m近くまできて飛び去った。「威嚇」されたのだろうか(藤掛保司)。

坂戸市城山 ◇2月21日午前11時30分頃、城山荘前の桜並木で、よくウソのいるあたりにオオマシコ♂♀3羽がとまっていた。10分ほどして飛び立つと5羽でした。当地周辺での初記録です(増尾隆)。

吉見町八丁湖 ◇2月21日、アカウソ3羽、当地初見。アトリ、ビンズイ、ヒガラ、ソウシチョウ(本多己秀)。

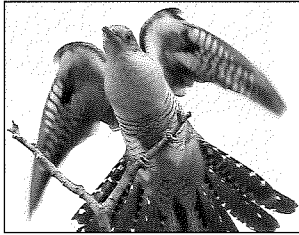
- 3月号「野鳥情報」欄の蓮田市黒浜の情報中、5ページ11月17日と11月20日の分の投稿者は鈴木紀雄さんでした。失礼しました。
- 送られてきた情報は、明らかに誤りと思われるもの、非公開が適当と思われるものを除き、そのまま掲載します。
- 今月号表紙の写真、撮影場所は非公開にさせていただきます。(編集部)

表紙の写真

フクロウ目フクロウ科フクロウ属フクロウ
撮影 大澤 祐(深谷市)



行事案内



カッコウ(蟹瀬武男)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：一般 100 円、会員と中学生以下 50 円。 持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。 解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。 悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：6月3日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行きバス 8:31 発で「自然観察公園前」下車。

担当：浅見、岡安、大坂、内藤、島田、立岩、永野(安)、永野(京)、山野、長谷川

見どころ：この地はかつて、サシバやサンコウチョウも繁殖していたそうです。たかだか 20 年前の話です。昨年6月の探鳥会では、ホトトギスが盛んに鳴いていました。青葉の季節、初ガツオも結構ですが、ホトトギスもね。こんな自然を大切に守って行きたいですね。

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園 駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅西口バス1番乗り場から、浦和美園駅行き 8:31 発に乗車、「念仏橋」で下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤(芳)、工藤、倉林、若林、新井(勇)、赤堀、須崎

見どころ：さわやかな季節です。カッコウの声をききながら、一面緑のなかに巣立ち間もない幼鳥たちを観察しよう。それにコアジサシのダイビングも期待して。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

<ヘルシーロードコース>

期日：6月3日(日)



タマシギ(松村禎夫)

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：6月10日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:49 発に乗車。

担当：榎本(秀)、中里、和田、森本、後藤、大澤、島田、倉崎、高橋(ふ)、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、鶴飼、千島

見どころ：梅雨の晴れ間の青空を、涼やかにツバメが飛び交います。初夏の風に吹かれて明戸堰まで歩きましょう。のどかなカッコウの声やオオヨシキリの大合唱が水辺に響き渡ります。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：6月16日(土) 午後3時~4時ころ

会場：支部事務局 108 号室

道順：浦和駅西口から県庁通りを少し進み、三菱UFJ信託銀行角を左折、旭通り商店会を抜けて高層ビル角の信号を直進、次の変形三つ又の真ん中の道を進んだ右側、5階建ての建物（プリムローズ岸町）。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：6月17日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺(周)、若林、小菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野沢、須崎

見どころ：見沼田んぼは優しい。特に緑が深くなる6月は優しい。芝川は北宿大橋の両岸が工事中ですが、橋の下流・右岸に保存されたプラタナスの木が優しさを伝えます。生きていることを感謝しながら、オオヨシキリとカッコウの声を聴きにお越しください。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：6月17日（日）

集合：午前9時、東武越生線川角駅前。

交通：東武東上線川越8:13→坂戸で越生線乗り換え8:42発。または寄居7:53→小川町乗り継ぎ、坂戸で越生線乗り換え。JR川越線大宮7:34→川越で東武東上線乗り換え。

担当：藤掛、高草木、青山、久保田、志村、増尾、杉原、林、原、藤澤、持丸、高橋(優)、山田(義)

見どころ：昨年はカルガモのヒナが7羽観察



シラコバト(落合英二)



オオヨシキリ(立岩恒久)

されました。ヒバリ、オオヨシキリそれにホトトギスも鳴いてくれました。今年はどうな鳥が鳴いてくれるでしょうか。コチドリやイカルチドリ、キジのヒナたちもどこかにきっと隠れていることでしょう。

支部総会のご案内

日時：6月24日（日）

午後1時 受付開始

午後1時30分～1時40分

ビデオ「埼玉県支部の三宅島探鳥会」

午後1時40分～2時30分 記念講演

「三宅島2000年噴火からの自然の回復と野鳥たち」山本 裕(本部サンクチュアリ室)

午後2時30分～4時30分 総会

会場：さいたま市民会館うらわ705-706 集會室(さいたま市浦和区仲町2-10-22 TEL 048-822-7101 <http://www.saitama-culture.jp/urawa/>)

交通：京浜東北線浦和駅西口から、徒歩約10分。県庁通りを真っすぐに西へ進み。さいたま会館手前の角を右折、玉蔵院を通り抜けて約400m、左側。

総会議題：平成18年度事業報告と決算報告、平成19年度事業計画と予算案、平成19年度役員を選出。

支部会員であればどなたでも参加できます。前年度の支部活動を振り返り、今年の方針や予算を決める大切な総会です。多数の方のご参加をお待ちしています。

総会終了後、支部事務局内で懇親会も予定しています。



行事報告

1月6日(土) 久喜市 久喜菖蒲公園

雨のため中止。

1月7日(日) 千葉県 ふなばし三番瀬海浜公園

参加：31名 天気：晴

ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ
コサギ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ
スズガモ ビロードキンクロ ウミアイサ オオ
バン ミヤコドリ シロチドリ ダイゼン トウ
ネン ハマシギ ミユビシギ ユリカモメ セグ
ロカモメ オオセグロカモメ ズグロカモメ キ
ジバト ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ツ
グミ シジュウカラ メジロ スズメ ムクドリ
ハシブトガラス (31種) 中止も考えたほどの強風
のもとで強行した探鳥会。人の少ない浜でズグロ
カモメが飛ぶ、ハマシギとミユビシギがすぐ近く
まで来る、など面白い。ビロードキンクロの雄
姿も全員で見た。終了近くなってミヤコドリの群
れが飛んできた。やってよかった! (杉本秀樹)

1月8日(月、休) 春日部市 内牧公園

参加：60名 天気：晴

カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ ノスリ
タシギ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキ
レイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ
ジョウビタキ シロハラ ツグミ ヤマガラ シ
ジュウカラ メジロ アオジ カワラヒワ シメ
スズメ ムクドリ カケス オナガ ミヤマガラ
ス ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 前
回11月に引き続き30種の大台をkeep。水辺のわず
かな当地としては上出来。また、ミヤマガラスは
当地初記録。さらに参加者は60名と前回の2.4倍で、
こいつは春から縁起がいい! 皆様、ありがとう
ございました。(石川敏男)

1月14日(日) 長瀨町 長瀨

参加：55名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ オシ
ドリ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オ

ナガガモ トビ オオタカ ノスリ チョウゲン
ボウ イカルチドリ イソシギ キジバト カワ
セミ アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキ
レイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ カワガ
ラス ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ
ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カ
シラダカ アオジ カワラヒワ イカル シメ
スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハ
シブトガラス (44種) 今回も皆さんヤマセミ君目
当ての参加。天気良し! 風無し! 絶好の鳥見
日和で、いざスタート。早々にヤマセミ君ポイン
トへ。たっぷり時間をかけたが現れず。まさかの
ドタキャンに絶句。そこに友情出演してくれたカ
ワガラスの夫婦? 長瀨の主役は私たちだとばかり、
その存在感をチラリ、チラリとサービス。その
姿に皆さん満足されたことと思う。ハラハラ、
ドキドキの探鳥会だった。(井上幹男)

1月14日(日) 熊谷市 大麻生

参加：29名 天気：快晴

カワウ コハクチョウ キジ キジバト ハクセ
キレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリ
ビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグ
イス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ
カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ
シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラ
ス ハシブトガラス (27種) 2007年最初の探鳥会。
快晴の空の下「野鳥の森」へ向け出発。土手に上
がるとホオジロ、シメ、カワラヒワ、ベニマシコ
が出現。上空にはコハクチョウが3羽飛翔。野鳥
の森ではシロハラ、ルリビタキも現れ、ゆっくり
楽しく探鳥会を終了。(後藤康夫)

1月14日(日) 戸田市 彩湖

参加：37名 天気：快晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ コサ
ギ マガモ カルガモ バン オオバン ユリカ
モメ キジバト ヒメアマツバメ カワセミ コ
ゲラ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ
アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メ
ジロ アオジ カワラヒワ ウソ シメ スズメ
ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハ
シブトガラス (32種) 風が強く湖面は白く波立つ。
風を避けて釣堀の林へ。アカハラが植え込みに、
林の梢にウソが10羽ほど。カケスも出る。岸辺に

出ると風は少し弱くなったようだった。とうとうヨシガモは出なかったが、鳥合わせ中にヒメアマツバメが2羽滑り込みだった。(倉林宗太郎)

1月17日(水) 栃木県 千本松

参加: 27名 天気: 曇

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ホオジロガモ ミコアイサ カワアイサ トビ ハイタカ ノスリ バン オオバン キジバト アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス キクイタダキ エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ ミヤマホオジロ アオジ カワラヒワ ベニマシコ ウソ シメズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (53種) 埼玉は雨だったようだが、那須はまざまずの天気。最初に千本松の赤田調整池を訪れるも、お目当てのコウライアイサは見当たらず。今シーズンは渡来しなかったようだ。気を取り直して林の中を歩けば、路上の水場にミヤマホオジロ、ベニマシコ、ウソなどが入れ替わり立ち替わり現れて、一同大いに盛り上がる。午後は真岡市の井頭公園まで足を伸ばし、ルリビタキ、ミコアイサを堪能。充実の探鳥に、帰りのビールがひときわ旨かった。(榎本秀和)

1月20日(土) 蓮田市 黒浜沼

参加: 66名 天気: 曇

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ コハクチョウ カルガモ コガモ キジ クイナ バン オオバン タシギ キジバト カワセミ アリスイ アカゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ ウソ シメズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (45種) 出発場所の上空にハクチョウの群れが見えて、幸先良いスタートを切る。アシ原ではいつものホオジロ、オオジュリン、カシラダカ、アオ

ジが揃ってくれた。沼の水鳥が寂しかったが、いつもは潜んでいるクイナが姿を見せてくれた。アシ原の立木にアリスイ。ほとんどの方が見られ、はじめての人もいて喜んでくれる。カケス、オナガの飛翔を後にして田んぼへ。後半のホタルの里ではカワセミが蓮の枯れ葉に止まっていた。ウソは声だけの観察で寂しい。終わって見たら45種の出現で、黒浜の多様さを感じてもらえただろうか?(田中幸男)

1月20日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 8名

新井浩、池田泰右、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、佐久間博文、島田貴子、松村禎夫

1月21日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加: 71名 天気: 晴

カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ホオジロガモ ミコアイサ カワアイサ ミサゴ トビ ノスリ ハイロチュウヒ チュウヒ ハヤブサ チョウゲンボウ オオバン セグロカモメ カモメ キジバト カワセミ アリスイ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (52種) 風もなく穏やか。早速ブロックの沖合にカワアイサ!と思ったらホオジロガモ♀だった。南ブロックではカワウ、カンムリカイツブリやハジロカイツブリ。釣り人が多く、水鳥は沖合にいて見難い。中ノ島から東橋付近までは、ベニマシコ、オオジュリン、ジョウビタキや浮島の上をチュウヒ、ミサゴ。東谷中橋手前で後ろのほうから呼び声がする。行ってみるとハヤブサ♀が護岸に降りているではないか。全員で見ることができた。左に折れ、史跡ゾーンへと足を進めれば、頭上をトビが旋回。やはり大きい。延命院跡地のクヌギにアリスイ。雷神社跡地に登ればハイロチュウヒ♀やモズ。芝生の上で鳥合わせ。52種と、風のないときのいつもの遊水地だった。

(内田孝男)



コムクドリ(須崎 聡)

連絡帳

●今年も、恐怖！ 誘拐の季節

早くも「雛を保護しました」との恐怖の電話が事務局にかかって来ています。どうか「保護」しないでください。それは親鳥にとっては「誘拐」なのです。

雛は、羽が一通りはえそろうとすぐに巣から出ますが、その段階ではうまく飛べません。地上に降りていることがよくあります。親鳥が餌を与えて誘導している内に、少しずつ飛べるようになるのですが、人が雛の近くにいると親鳥は警戒して寄って来ません。ですから、地上にいる雛は、まるで迷子のように見えるのですが、そこで人に「保護」されてしまうと、もう親鳥の保護は受けられなくなってしまいます。

人が親鳥の代わりに育てても、自然界での生き方を親から学習していない雛は、生きていけないと考えられます。

野鳥の雛が地上にいたら、何もしないで早くそこから立ち去ることが一番です。ネコ、カラスや車が心配だったら、茂みの中などに移動しておくことは出来るでしょう。親鳥は雛の声で居場所がわかりますから。

怪我をしている、あるいはぐったり横たわ

って明らかに弱っているような場合、埼玉県内では県みどり自然課野生生物担当 TEL 048-830-3154、FAX 048-870-4775 に連絡して近くの野生生物保護診療機関の所在を聞き、そこに運んでください。どうしてもやむを得ない場合だけに限るようお願いします。

●普及活動

平成 18 年 4 月 30 日(日)と 19 年 2 月 4 日(日) 小川元気プラザ主催探鳥会で、後藤康夫・青山絃一・中村豊己・千島康幸が指導。

平成 18 年 10 月から 19 年 3 月まで毎月 1 回、さいたま市立大門小学校 5～6 年生の自然委員会を小荷田行男が指導。

●事務局の予定

- 6 月 2 日(土) 編集部・普及部会議。
- 6 月 9 日(土) 7 月号校正(午後 4 時から)。
- 6 月 16 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。
- 6 月 17 日(日) 役員会(午後 4 時から)。

●会員数は

5 月 1 日現在 2,247 人です。

活動報告

- 4 月 14 日(土) 5 月号校正(海老原美夫、大坂幸男・喜多峻次・藤掛保司)。
- 4 月 15 日(日) 役員会(司会:大坂幸男、講師派遣依頼への対応・次期役員・その他)。
- 4 月 23 日(月)「支部報だけの会員」に向けて 5 月号を発送(倉林宗太郎)。

編集後記

先日、私の友人が三宅島に行ったおり、往復の船で埼玉県支部の探鳥会と同じだったそうです。彼女曰く「埼玉県支部の皆さんはフレンドリーな方ばかりで、楽しい旅になりました。特にリーダーの方が、海鳥について親切に教えて下さって勉強になりました。よろしくお伝え下さい」ということでした。(小林みどり)

しらこぼと 2007 年 6 月号(第 278 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://35.tok2.com/wbsjsaitama/>

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先は 〒151-0061 渋谷区初台 1-47-1 小田急西新宿ビル 1 階
(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生コート紙使用。印刷 関東図書株式会社